

## NPO 自立支援センター ふるさとの会

2009.10  
【第10号】



これはHTML形式のMAILです。オンラインで無い場合は画像が表示されない可能性があります。

※ふるさとの会のメールマガジンをご愛読いただき、誠にありがとうございます。今後もふるさとの会の活動内容を定期的に情報発信させていただきたいと存じます。

### INDEX

1. 葛西臨海水族館見学
2. 帰宅困難者訓練を終えて
3. 中野区保護司会:「再犯防止のための自立支援を考える」
4. 第3回自殺総合対策企画研修にて発表

### 1. 葛西臨海水族館見学

地域生活支援センターすみだでは定期的にイベントが開催されています。去る9月14日、今回は葛西臨海水族館見学が開催されました。今回は地域生活支援センター「すみだ」の利用者と職員計20名が参加しました。電車・バスと何度か乗り換えがありましたが、移動中も利用者たちは非常に楽しそうだったのが印象的でした。現地到着後に昼食を摂り、記念撮影をすませ水族館に入りました。いくつかのグループに分かれ、各国の水中や水辺で生活する生き物を眺めていましたが、みなさん非常に興味津津で、「ペンギンが一番かわいいよね。」「みんなで泳いで楽しそうだったね。」と、水族館を後にしてもお互いに感想を言い合っていました。地域で生活する高齢者が、今回の様に地域の人たちと地域の施設を利用して生活する事が、心も身体も大切にしていき、安定した生活につながるのだと思いました。  
(望月拓馬)



### 2. 帰宅困難者訓練を終えて

9月26日、爽やかに晴れた土曜日に東京災害ボランティアネットワーク主管のもと『首都圏帰宅困難者対応訓練』が行われました。この訓練は首都圏に大地震が起きた場合、負傷者だけでなく多くの帰宅困難者が発生すると想定し、都心から十数キロのコースを歩きながら市民一人ひとりの防災意識を高めようという目的で開催されました。

ふるさとの会も今年で6回目の参加となり、全4コース(東京コース・神奈川コース・千葉コース・埼玉コース)の内、千葉コースの築地本願寺にエイドステーション(AS)を設営し、テントの設置、休憩所の確保、情報伝達訓練の為のボードの設置などを行いました。また訓練参加者の為に給水タンク・簡易食料の提供、コース及びトイレの案内などを行いました。千葉コースは日比谷公園を出発し、ゴールは行徳駅前公園までの約20kmのコースで、築地本願寺は最初のエイドステーションです。

築地本願寺のエイドステーション(AS)には約14名のボランティアの方が参加してくれました。ボランティアの方の中には派遣切りで就職活動中の方・今は施設に入っているが以前はネットカフェや路上で生活していた方・心身の困難を抱えていて就労出来ずに苦しんでいる方などもありました。本来自分の事で精一杯な筈なのに、誰かの役に立ちたいと参加してくれました。

当日は朝10時から11時半頃までの短時間に約1,000人近くの訓練参加者が給水やトイレ、簡易食料を受け取るために築地本願寺のエイドステーション(AS)に立ち寄りしました。ASのボランティアは主にテントでの配給と道案内とに分かれて訓練参加者の支援をしました。しかし大勢の訓練参加者の中には、彼らの為に一生懸命お手伝いをしているASのボランティアに心無い一言を言うてしまう参加者もいて、近くで見ている、何か言い返すかな? 逆切れしないかな? とハラハラしていました。しかし、一瞬ムツとした顔をしたボランティアもいますが、すぐにきちんと説明をし、笑

顔で対応をしていたのには感心しました。後で彼らに感想を聞くと、文句を言ってきた人達は今まで他人から何かをしてもらっばかりで自分から人の為に何かをしようと行動を起こしたことが無いんじゃないかな？・・・それよりもっと多くの人達にありがとう！と言われた事が嬉しくて一生懸命頑張ったと話してくれました。とかく就職活動中の方々などは、自分は落伍者だと自己否定してしまう人が多い中、そのように自分自身を自己肯定し自信をつけた姿を見ることが出来、本当に参加して良かったなと感じました。皆の努力のお陰で築地本願寺のASは怪我や事故もなく無事に終了しました。

秋晴れの中、彼らの清々しい笑顔が印象に残り、来年も是非参加したいと思いました。

(滝澤健一郎)



### 3.中野区保護司会:「再犯防止のための自立支援を考える」

平成21年7月3日、ふるさとの会も協力団体である生活再建相談センターが、日本で初めて一時保護事業に特化した更生保護法人同歩会(代表理事:水田恵)として法務大臣より設立認可を受けました。9月には、同歩会の理事である秋山雅彦氏と的場由木氏が台東区の保護司に委嘱されました。

その保護司委嘱に伴い、9月12日に中野区保護司会より、「再犯防止のための自立支援を考える」のテーマで講演依頼を受け、秋山氏が講師として招かれました。土曜日の午前中、雨にも関わらず、50名近い中野区保護司の方々が参加されました。

出所後、身寄りがおらず、職に就けずに生活困窮状態となると、万引きや無銭飲食等による再犯リスクが高まる傾向にあります。なかでも高齢者に関してはいえば、出所後6～12ヶ月以内の再犯率が30%を超えています。刑務所は最後のセーフティネットとも言われていますが、受刑者1名につき年間約300万円の税金がつかわれます。しかし、本来ならば生活保護制度が社会のセーフティネットであり、東京都の場合、1名につき年間約160万円が支給されています。出所者が社会復帰をするためのシステムや支援が不十分であると、結果的には再犯によって犯罪件数が減らず、公的コストが非効率となり、社会不安が増大しかねません。

そこで同歩会は、主として困窮、高齢、要介護、障害など福祉的支援を必要とする刑務所出所者を対象とし、彼らが地域へ移行するために、行政や医療機関等との連絡調整、及び地域生活に定着・安定するためのコーディネートを行います。同歩会が福祉へ「つなぎ」、ふるさとの会をはじめ、地域のNPO等引受団体がアフターケアを行うことで地域生活をサポートし、再犯を防止します。

今回の講演に参加された方々は、同歩会及びふるさとの会の活動に関心をもたれたようで、とても参考になったとの感想をいただきました。出所者が再犯を繰り返さずに、地域で安定・安心した生活を送ることを願う気持ちは保護司も同歩会も同じです。そのためには、受け皿づくりや社会資源の活用など、地域での生活が継続可能となる支援体制を整えていく必要があると改めて実感しました。

(川越一恵)



### 4.第3回自殺総合対策企画研修にて発表

8月26日、国立がんセンターにおいて「平成21年度精神保健に関する企画研修第3回自殺総合対策企画研修」(国立

精神・神経センター精神保健研究所主催)が行われ、全国の保健所や精神保健福祉センターなどから79名の行政職員が参加されました。3日目の「自殺対策の今後の視点 生活困窮者」に、久里浜アルコール症センターの森川すいめい医師、北九州ホームレス支援機構の森松長生常務理事とともに講師に招かれ、プレゼンテーションをしてきました。

三人の演者に共通していたのは、ホームレス支援におけるメンタルケアの重要性だったと思われます。森川氏は精神科医としてだけでなく、代表をされている支援団体「TENOHASI(てのはし)」における池袋の支援活動を通して、ホームレス状態が自殺のリスクを高めていることを論じ、取り組みの報告をされました。ふるさとの会はこれまで直面してきた自殺の事例を挙げて、物理的な欠乏を埋めるだけでは解消できない安心生活の課題と継続支援の必要性を述べ、また森松氏は「ハウスレス」と「ホームレス」などの鍵概念を軸に、地域社会の在り方も射程に入れた問題提起をされました。

貧困が社会問題として広がりを見せるなか、社会的不利を抱える人たちが安心して生活できる地域づくりの視点は、今後ますます重要になると思われます。自殺予防の取り組みとホームレス支援が相互に啓発していく必要を考えさせられました。

最後に、この間「貧困ビジネス」としてマスコミで報道されている宿泊所の存在などもあり、全国各地で行政とNPO、支援団体などが自殺予防のために連携していくにあたって、信用の基準について質疑がありました。情報公開と説明責任を原則に事業を展開していく、横断的で自律的な取り組みが求められていることを改めて認識し、自殺予防にかぎらずさまざまな領域の論議に活かしてゆきたいと思います。

(滝脇憲)



発行元: 特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会  
〒111-0031 東京都台東区千束4-39-6  
TEL: 03-3876-8150 FAX: 03-3876-7950  
E-mail: [hurusato@d5.dion.ne.jp](mailto:hurusato@d5.dion.ne.jp)  
HTML: <http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/>